

【トピックス】

(P.1～2) 第39期アジア研修生 修了式・謝恩会

(P.3) とともに学び、ともに創る福祉の未来 ～スタディツアー（in スリランカ）～

(P.4) 世界とつながる 未来の福祉がともに、動き出す～国際交流・支援活動会員のご案内～

第39期アジア社会福祉従事者研修 修了式・謝恩会

2026年2月20日（金）全社協・灘尾ホールにて、第39期アジア研修生の修了式を執り行いました。修了式では、11か月を通し、各国で福祉活動に従事する、ソーシャルワーカーとしての視点から、学んだことを発表しました。謝恩会では、お世話になった見学先・研修先の方々と思い出話に花を咲かせました。



第39期研修生修了式でのスピーチ ～11か月の学びを明日の福祉につなげていく～



(韓国)
キムさん



施設が単なる支援の場ではなく地域住民が集う日常の一部となっている実態に触れ、福祉における『つながり』と『継続性』の重要性を再確認しました。



(台湾)
ホワンさん



『管理より生活を』という方針のもと、ルールに縛られず主体性を尊重する支援に触れるとともに、地域共生社会の実現に向けた予防的アプローチの価値を学びました。



(フィリピン)
エイプリルさん



利用者一人ひとりのニーズを理解する大切さを実感し、専門職や地域が連携して支える日本の包括的な共生社会の仕組みと実践を学びました。



(タイ)
アイスさん



放課後児童クラブや母子生活支援施設などの自立を重視した支援に感銘を受け、利用者の能力に合わせた継続的なサポートの重要性を学びました。



(スリランカ)
サミーラさん



放課後等デイサービスや高齢者の健康を支える仕組みを学び、スリランカの家族文化に合わせた新たな支援モデルの導入をめざします。



(インドネシア)
ハディさん



障害が障壁にならない社会をめざし、利用者が主役になれる地域交流や、就労後も続く日本の一貫したサポート体制の有用性を学びました。



6名の修了スピーチは、右記YouTubeよりご覧いただけます！

<https://x.gd/TOSkG>



ともに学び、ともに創る福祉の未来 ～スタディツアー（in スリランカ）～



1月13日から4日間にわたり、スタディ・ツアーを実施し、アジア社会福祉従事者研修修了生の母国での福祉活動を視察しました。今回のツアーの主な視察先とそのポイントを紹介します。

子どもをひたらくの。

NESEC財団

児童福祉分野を中心とした支援活動を行っており、セートウンガさんをはじめ多くの修了生が在籍しています。

日本の参加者に向け、スリランカの福祉の現状や、スリランカに深く根付く仏教の精神と「慈悲の心」に基づく福祉実践について説明がありました。

同行いただいた修了生

セートウンガさん(2期)、パドゥマさん(38期)



全社協が実施する「育むプロジェクト」にも関わっており、ツアーでは支援を受けた子どもたちと交流する機会が設けられました。ツアー参加者は、子どもたちの笑顔や前向きな姿勢に励まされるとともに、「支援とは何か」を改めて考える機会になりました。

スリスガタ地域開発財団

児童養護施設や障害児の学校、図書館サービスなどを運営し、仏教と福祉が密接に結びついた支援を行っています。

また、子どもや家庭への支援に加え、地域住民同士の支え合いを基盤とした地域活動が展開されています。

ツアーでは、寺院を拠点とした地域福祉の実践を見学しました。

同行いただいた修了生

ナンダさん(8期)、マドゥさん(33期)



地域とともに
支える
子どもの学び。

活動の中心には、修了生の姿があり、地域住民や子どもたちと信頼関係を築きながら、ソーシャルワーカーとして活躍する姿が印象的でした。日本での学びや経験が、現地での実践の中で確かに活かされていることを実感しました。

高齢者の尊厳と健康を守る。

ヘルプ・エイジ・スリランカ ※修了生の協力団体

デイケアサービス、ホームケアの提供などを通じて、高齢者の尊厳ある生活を支えています。スリランカにおける高齢化への対応として、白内障手術という医療支援と連携したケアの提供をはじめ、デイケアセンターでの交流や、各地域での高齢者団体の組織化など、高齢者の社会参加促進にも貢献しています。



現地では、高齢者の健康維持や尊厳の確保、地域での支え合いの仕組みづくりについて活発な意見交換を行いました。世界的に高齢化が進む中、両国がそれぞれの実践や経験を共有し、今後の高齢者福祉の方向性をともに考える貴重な機会となりました。

(全国社会福祉協議会 広報室 町田 桃菜)

世界とつながる 未来の福祉がともに、動き出す ～国際交流・支援活動会員のご案内～

全国社会福祉協議会では、国際交流・支援活動を支える「国際交流・支援活動会員」を募集しています。本事業にご賛同いただける方、参加したいと関心を持っていただいた方、ぜひ会員登録をお願いします。詳細は、本会ホームページ（下記QRコード）をご確認ください。



国際交流・支援活動会員について

<https://www.shakyo.or.jp/bunya/kokusai/member/index.html>



<2025年度会員のみなさま>

ご支援・ご協力をいただき、ありがとうございました。

【法人・組織会員、賛助会員】

わらしべ会（北海道）、ライフの学校（宮城県）、恵の園（群馬県）、六親会（千葉県）、東京栄和会 なぎさ和楽苑（東京都）、至誠学舎立川（東京都）、村山苑（東京都）、徳心会（東京都）、東京光の家（東京都）、中心会（神奈川県）、小諸青葉福祉会 やまびこ園（長野県）、梓友会（静岡県）、天竜厚生会（静岡県）、静岡恵明学園（静岡県）、福寿園（愛知県）、夕陽会（滋賀県）、六心会（滋賀県）、みねやま福祉会（京都府）、成光苑（大阪府）、ふじ福祉会（大阪府）、大阪自彊館（大阪府）、晋栄福祉会（大阪府）、桃林会（大阪府）、堺暁福祉会（大阪府）、大阪府社会福祉協議会（大阪府）、あすなろ会（島根県）、クムレ（岡山県）、来島会（愛媛県）、慈愛会（福岡県）、くすの樹会（福岡県）、あすか福祉会（福岡県）、肥後自活団（熊本県）、常盤会（鹿児島県）、公益財団法人 鉄道弘済会、一般社団法人 社会福祉懇談会、その他 4 法人

【個人会員】（敬称略）

石井 謙次、小川 耕平、奥田 赳視、川本 明良、栗和田 敏、小嶋 憲子、小林 和弘、小林 大真、下山 當子、高杉 威一郎、高橋 進、高山 科子、谷 由紀子、辻村 泰範、辻村 万里子、辻村 泰聡、塘林 敬規、野田 大介、福田 眞弓、松下 明、三上 智代、矢島 友理絵、山本 たつ子、横内 定明、その他 11 名様（本会役職員含む）

【育むプロジェクト支援会員】（敬称略）

石井 謙次、小嶋 憲子、塚本 薫、津山市民生児童委員連合協議会、その他 2 名様（本会役職員含む）

修了生と行う福祉活動スタート！

皆さまからご支援いただいた会費は、アジア社会福祉事業や各国の修了生とともに進める福祉活動に使わせていただいています。2026年3月、以下2種類の活動に対する支援をスタートしました。

アジアの子ども達に寄り添い、育むプロジェクト



生活困窮等で教育の機会を得られない子どもの**就学・就労訓練を支援**。

現地の修了生が子どもたちのニーズを把握し、それぞれの子どもにあわせた支援活動を行っています。

2026年度は5か国※32名の子どもへの支援を決定

（合計で約163万円・2026年3月末に送金予定）

4月より、各国で修了生が中心となり子ども達の支援をスタートします。

※支援対象国(5か国): フィリピン、タイ、マレーシア、スリランカ、インドネシア

大規模災害 福祉活動支援（インドネシア）

インドネシア(ジャワ島・アチェ州)の大雨被害に対し、修了生たちが福祉支援活動を開始。



【現地修了生からの報告】

国内でも「アチェ州」の被害は甚大で、**地域の助けあいでカバーできない状況が続いています**。しかし、初期に「自国で対応できる」と政府が発信したため、**国際的に被害が過小評価されている傾向**です。

特に、女性や子どもなど、災害時に「弱い立場」に置かれるリスクの高い人への暴力が発生するリスクが非常に高く、速やかに福祉支援を行いたいと考えています。（18期・ノルさん）

修了生グループ等に対し、380万円の支援を決定

（2026年3月末に送金予定）

ご支援いただいた会費は基金として管理し、さまざまな国際事業を運用しています。全社協に設置された「国際社会福祉基金委員会」がその基本方針を策定し、企画を推進するとともに、基金の活用状況を確認し管理しています。2026年2月20日に上記委員会を開催し、上記福祉活動の実施を協議、決定しました。